

第6回教育委員会（定例）議事録

- 1 開 会
令和5年9月13日（水） 14時00分
- 2 場 所
今田まちづくりセンター 集会室
- 3 会議に出席した委員
教育長 丹後 政俊
委 員 西田 正志
委 員 山本 恭子
委 員 鈴木 友美
委 員 吉良 佳晃
- 4 会議に出席した職員
学校教育部長 西羅 忠和
こども未来部長 稲山 悟
社会教育部長 小林 康弘
学校教育次長 岸田 幸雄
こども未来次長兼保育教育課長 西嶋 睦美
教育総務課長 酒井 寛興
学校教育課長 浅田 智広
学 事 課 長 山本 毅
教育研究所長 足立 圭吾
東部学校給食センター所長 石田 哲也
子育て企画課長 竹見 朋子
社会教育課長 谷掛 昭二
文化財課長 村上 由樹
中央図書館長 小島 理三
田園交響ホール館長 酒井 直隆
総 務 課 長 河南 剛
教育総務課課長補佐 山内 俊秀
- 5 議事日程及び議案
別紙の通り
- 6 開会宣言
14時00分
- 7 会 期
(自) 令和5年9月13日
(至) 令和5年9月13日 1日間
- 8 会議録署名委員名簿
鈴木友美委員
- 9 閉 会
14時57分

丹後教育長 全委員 丹後教育長	日程第 1、令和 5 年度第 5 回会議録の報告、承認について意見等はないか。 異議なし。 全員異議なしで、会議録をこのとおり承認する。
丹後教育長	日程第 2、会議録署名委員は、3 番鈴木友美委員を指名する。
丹後教育長	日程第 3、会期は令和 5 年 9 月 13 日、本日 1 日間とする。
丹後教育長	日程第 4、承認事項に移る。承認第 7 号「令和 5 年度補正予算（第 7 号）案の市長への提案について」稲山部長に説明を求める。
稲山部長	《議案書に基づき説明》
西田委員	今後、施設を建設する際の教訓として、どのようにすれば今回のような事態が防げるのかも考えていく必要があると思う。
稲山部長	8/31 保護者説明会においても同様の意見があった。こうした問題を 100% 解決する方法は持ち合わせていないが、当時の資料確認を含め、土地の履歴を遡って確認することや、コストは考慮する必要があるが科学技術を活用した調査を併用しながら対応していくことも必要であると感じている。
西田委員	開園時期が示せない中であっても、詳細を隠さず保護者に説明されたことで保護者も納得されたと思う。保護者への迅速かつ丁寧な対応に感謝する。
稲山部長	現在、ダイオキシンの土壌調査を行っており、その結果に基づく対応も今後必要になると思うが、速やかに対応していきたい。
丹後教育長 全委員 丹後教育長	承認第 7 号「令和 5 年度補正予算（第 7 号）案の市長への提案について」採決をする。異議はないか。 異議なし。 全員賛成で、承認第 7 号「令和 5 年度補正予算（第 7 号）案の市長への提案について」を承認する。
丹後教育長	承認第 8 号「（仮称）今田こども園新築工事請負契約の変更について」稲山部長に説明を求める。
稲山部長	《議案書に基づき説明》
丹後教育長 全委員 丹後教育長	承認第 8 号「（仮称）今田こども園新築工事請負契約の変更について」採決をする。異議はないか。 異議なし。 全員賛成で、承認第 8 号「（仮称）今田こども園新築工事請負契約の変更について」を承認する。

丹後教育長	日程第 5、議案に移る。議案第 9 号「丹波少年自然の家事務組合の解散に関する協議及び丹波少年自然の家事務組合規約の変更について」教育総務課に説明を求める。
酒井課長	《議案書に基づき説明》
山本委員	組合解散にあたり、今後、施設を存続し活用するために必要な経費の一部を負担していくことになるのか。
山内課長補佐	解散の協議を正式に始めること、財産処分に関すること、規約を変更し丹波市で事務を承継、管理運営及び決算を行うことの 3 議案が市議会に提案されており、財産処分を除く議案については、教育委員会に求めた意見も参考に議決する流れになっている。
山本委員	引き続き、丹波少年自然の家は利用できるのか。
山内課長補佐	承継された丹波市の施設として利用はできる。
西田委員	一般利用とは別に、元々、阪神間及び丹波市の学校においては、校外学習や自然学校での利用があったのに対し、本市の利用はなかったと認識している。
丹後教育長	議案第 9 号「丹波少年自然の家事務組合の解散に関する協議及び丹波少年自然の家事務組合規約の変更について」は「異議ない旨を市議会へ回答」することに異議はないか。
全委員	異議なし。
丹後教育長	全員賛成で、議案第 9 号「丹波少年自然の家事務組合の解散に関する協議及び丹波少年自然の家事務組合規約の変更について」は「異議ない旨を市議会へ回答」する。
丹後教育長	議案第 10 号『「令和 4 年度実績 教育委員会の点検・評価」について』教育総務課に説明を求める。
酒井課長	《議案書に基づき説明》
西田委員	教師、教員、教職員の表記を教職員に統一することについて、意味がそれぞれ違うので、文中で適切な言葉を使えばいいのではないか。
山内課長補佐	ほとんどの箇所が教職員という意味で使っていることから統一することとしているが、再確認のうえ対応する。
西田委員	図書館の指標にある年間の貸出し密度について教示願う。
小島館長	1 人当たりどれだけの冊数を借りているかとの指標である。
西田委員	カード登録者が対象になるのか。
小島館長	そのとおりである。
小林部長	貸出し者数であれば人口が多いところは多くなる一方で、人口の少ないと

丹後教育長	<p>ころは少なくなる傾向にあり比較が難しいが、貸出し密度という指標を設けることで、他市との比較や今後の人口増減にあっても、判断基準にできる。</p> <p>外部評価者には膨大な資料を点検いただくとともに貴重なご意見をいただいたこと感謝する。講評等も含め、改善の指摘をいただいたものについては見直し、よくやっていると評価をいただいたものについては、しっかりとアピールしていく必要があると思っている。</p>
丹後教育長	<p>議案第 10 号『「令和 4 年度実績 教育委員会の点検・評価」について』採決をする。異議はないか。</p>
全委員	<p>異議なし。</p>
丹後教育長	<p>全員賛成で、議案第 10 号「令和 4 年度実績 教育委員会の点検・評価」について』原案どおり可決する。</p>
丹後教育長	<p>日程第 6、報告事項に移る。報告 1「寄附採納について」教育総務課に報告を求める。</p>
山内課長補佐	<p>《議案書に基づき報告》</p>
丹後教育長	<p>報告 2「後援名義の承認について」教育総務課に報告を求める。</p>
山内課長補佐	<p>《議案書に基づき報告》</p>
山本委員	<p>一日体験かけっこ教室及び申請団体の内容について、教示願う。</p>
山内課長補佐	<p>子どもたちを対象に無料のスポーツイベントを各地で開催されており、今回は 10 月 11 日と 18 日に、市内 3～12 歳の子どもたちを対象に西紀体育館で実施される。なお、申請団体の NPO 法人アミティエスポーツクラブは、サッカーを中心としたスポーツの普及に関する事業等を行うことで、スポーツの普及及び子どもの健全育成を図ることを目的に活動されている団体である。</p>
山本委員	<p>2023 年ラグビーフェスティバルの内容について、教示願う。</p>
山内課長補佐	<p>三田市でラグビースクールを運営している団体が、三田市の駒ヶ谷運動公園で、丹波篠山市だけでなく神戸市や三木市、加東市、三田市の子どもを対象に、ラグビーボールを使った遊びやラグビー体験を通じて、楽しく体を動かし、ラグビーを身近に感じてもらうことを目的に実施されるものである。</p>
丹後教育長	<p>報告 3「小中学校児童生徒の問題行動等について」学校教育課に報告を求める。</p>
浅田課長	<p>《議案書に基づき報告》</p>

<p>山本委員 浅田課長</p>	<p>不登校の児童生徒について、2学期が始まった中、変化等はあったのか。大きな変化はないが、1学期末頃から不登校であった生徒が2学期になってからは登校できている事例はある。</p>
<p>西田委員</p>	<p>来月でよいので、ゆめハウスと篠山中学校の適応指導教室の状況を報告いただきたい。</p>
<p>浅田課長</p>	<p>報告させていただく。</p>
<p>丹後教育長</p>	<p>報告4「教育長報告」について報告する。</p> <p>前回の定例教育委員会以降のスケジュールについて、多くの行事や会議に参加し、9月9日には世界平和アピール七人委員会講演会に出席した。今田地域出身で平凡社を創設した下中弥三郎さんが呼びかけられ、世界平和は大事であるとアピールする七人委員会というのをつくられた。初期のメンバーには湯川秀樹さんや平塚らいてうさん等、著名な方もおられました。お亡くなりになったりして、メンバーは変わっても世界的に活躍されている方7人が、全国各地で講演会を実施されていたが、下中弥三郎氏の没後50年の節目となる平成23年度からの故郷である丹波篠山市で毎年平和講演会を開催しており、今回で11回目となる。</p> <p>今回はメンバーの一人で国際政治学者の酒井啓子さんの講演会で、世界情勢や世界について視野や世界平和を意識するよい機会となったと思っている。印象に残っているのは、中東地域は紛争が多いが、教育も大事にされていて、その中東地域が目標にしているのが日本の教育であるということを知らせていただきました。日本が進めてきた協調性を大事にしていることを参考に進められているというお話をいただいた。世界に誇るべき令和の日本型学校教育について、課題を克服しながらさらによいものを伸ばしていくことを、自信をもって取り組んでいきたいと思った。</p> <p>明日に開催する9月の定例校長会で話す予定のSTEAM教育について触れておく。言葉自体は以前からあるが、今回、これを取り上げたのは、篠山鳳鳴高校が「STEAM探究科」の創設を予定している中、コンソーシアム（共同事業体）運営委員会の委員に市長とともに就任することから整理した。</p> <p>STEAM教育とは、2000年代にアメリカで始まったSTEM教育に芸術・リベラルアーツの視点も加えるかたちで進んでいる。中教審答申の中でも触れられており、これからの教育においては、文系や理系といった枠にとらわれず、各教科等の学びを基盤としつつ、様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力の育成が求められており、その力を育てるのがSTEAM教育ということになる。主に、小学校や中学校での各教科等や総合的な学習の時間における教科等横断的な学習や探究的な学習、プログラミング教育などの充実が大事だということも答申されている。</p> <p>そのために教師が一人一人に応じた学習活動を課すことで、児童生徒自身が主体的に学習テーマや探究方法等を設定することが重要である。さらに各</p>

論の「高等学校教育等の在り方」についても、STEAM 教育の記述があり、文理の枠を超えて教科等横断的な視点に立って進めることが重要、小中学校での教科等横断的な学習や探究的な学習等の充実が謳われている。これからも各教科ももちろん大事ではあるが、それだけにとられるのではなく、横断し総合的に、自分の関心を持ったテーマを決めて探求していくことが大事になってくると思う。

「新たな課題を発見する力」「新たな価値を創造する力」「思考力」「対話力」「活用力」を育てていくために、STEAM 教育が取り入れられており、高校だけではなく小中学校でもこの視点は大事になってくると思っている。

以上で、本日の審議は全て終了する。

これをもって、第6回定例教育委員会を終了する。